

日本現代文學全集
68

青野季吉
小林秀雄
集

講談社

日本現代文學全集

68

青野季吉・小林秀雄集

編集

伊藤 整
龜井 勝一郎
中村 光夫
平野 謙
山本 健吉



初版 第1刷

昭和37年12月19日

増補改訂版 第1刷

昭和55年5月26日

著者 青野季吉
小林秀雄

發行者 野間省一

發行所 株式會社 講談社

東京都文京區音羽 2-12-21

郵便番號 112

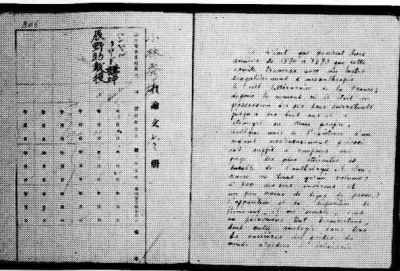
電話東京03 (945) 1111(大代表)

振替東京 8-3930

裝幀 蟹江征治

印刷 豐國印刷株式會社
製本 株式會社國寶社

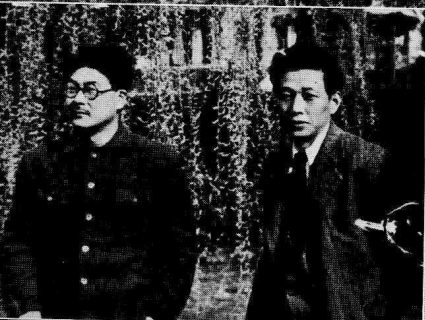
落丁本・亂丁本はお取りかえいたします
Printed in Japan



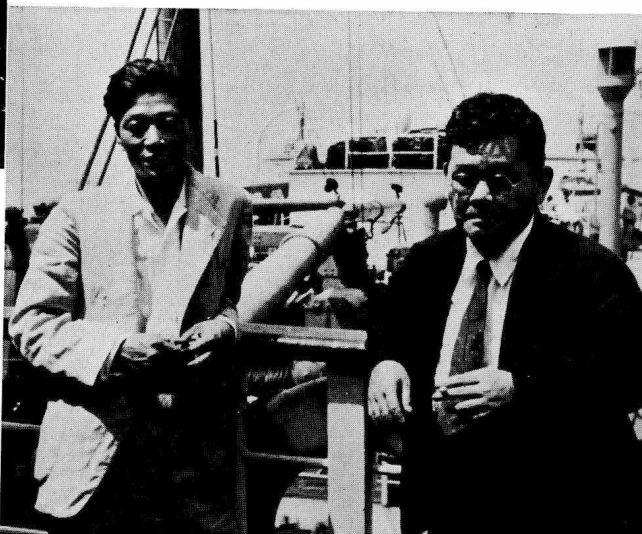
← 昭和三年 東大佛
文科の卒業論文



← 昭和十三年四月 芥川賞賞品持参の際
湖畔にて 左 火野葦平 中国杭州西



↓ 昭和十五年 朝鮮
年講演旅行の途中
關釜連絡船上にて
寛右菊池



↑ 昭和十八年 上海にて 左 草野心平
← 昭和二十八年春 オランダヘーグにて



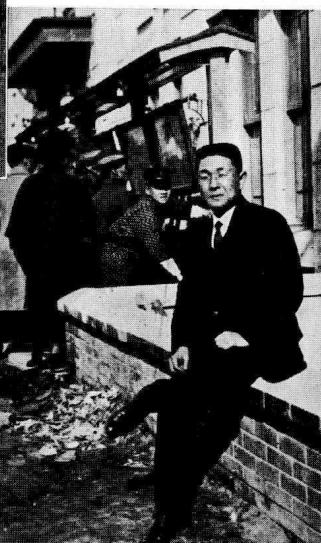
昭和三十四年 東京世田谷の自宅にて 青野季吉（撮影 田村茂）



→明治四十一年 高田師範學校第二部生時代 右
から 淺香寛 塚原徹 季吉 酒井千尋 兒玉
龍太郎
←明治四十二年 新潟縣中浦原郡袋津小學校
勤務當時 左 妹 ジウ

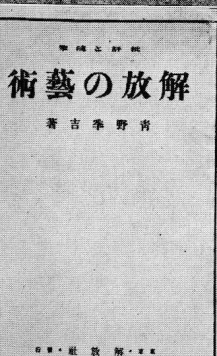


←大正四年 早大卒業記念 前列右から 片上伸
長谷川天溪 金子馬治 紀淑雄 吉江喬松 三
列目右から 鷺尾雨工 保高德藏 細田民樹
一人おいて 坪田讓治 後列右から 直木三十
五 季吉 細田源吉 西條八十



→大正六年頃 讀賣新聞記者時代

←處女評論集「解放の藝術」大正十
五年刊





昭和三十七年十一月 鎌倉雪ノ下の自宅にて 小林秀雄



(所藏 富永次郎)

(所藏 石丸重治)



↑明治三十八年五月 四歳の時
右 妹 富士子

←大正四年四月 右から 秀雄
叔父 城谷宏 父 豊造 妹
富士子 母 精子



→大正六年 東京府立第一中學校三年生當時
←秀雄が同人として参加した「青銅時代」と
「山籬」の表紙

青銅時代



號三第卷二第

昭和十一年三月

→昭和十三年「文学界」の同人 前列右から 中島健蔵
季吉 林房雄 島木健作 龜井勝一郎 横光一 中列
右から 村山和義 中村光夫 後列右から 小林秀雄



→昭和十年頃 右から 金子洋文 伊藤永
之介 季吉
←昭和三十一年十一月 中國郭沫若邸にて 右
から 郭沫若 宇野浩二 季吉 久保田万太
郎



↓昭和三十三年 警職法
反対デモに
参加の折
ブラカード
の人の左
季吉 右
高見順



→昭和三十二年 奥多摩
湖見學 右
から 浅見
淵 小田獄
夫 保高德
藏 季吉
(撮影長谷健)

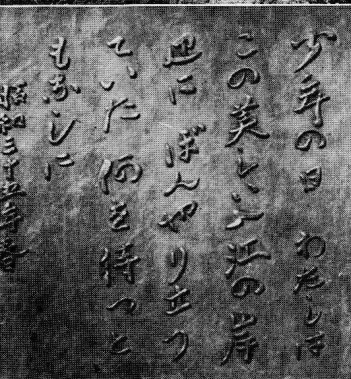




→父 半五郎 母 ヒサ
←佐渡の佐和田町澤根にある季吉の生家



→生家の近くから見た眞野の入口
↓季吉の生地
に建てられた「青野季吉」の碑と自筆の碑文



→明治三十九年
佐渡中学校五年生當時
右から 季吉
塚原徹 浅香
寛 近藤義重





→昭和二十九年十月 九州太宰府跡にて 右から
永井龍男 秀雄 丹羽文雄

↓昭和三十一年春
本郷のレストラン
にて 右から 辰
野隆 鈴木信太郎
中島健蔵 秀雄
渡邊一夫
(撮影 石井彰)



↓昭和三十五年秋 鎌倉雪ノ下の
自宅にて 右から 長女 明子
妹 富士子 (田河水泡夫人)



→昭和三十三年十二月十七日 「近代繪畫」
により野間文藝賞受賞の時 東京會館にて
右 吉川英治



青野季吉集 目次

筆 蹟

心靈の滅亡……………	七
文藝運動と勞働階級……………	九
藝術の革命と革命の藝術……………	二三
解放戰と藝術運動……………	二六
藝術でない藝術……………	三〇
「調べた」藝術……………	三三
外在批評論……………	三五
文藝批評の一發展型……………	三五
外在批評への一寄與……………	三七
根本的の不滿……………	三三
現代文學の十大缺陷……………	三三
目的意識論……………	三八
自然生長と目的意識……………	三八
同……………再論……………	三九

正宗氏の批評に答へ所懷を述ぶ……………	四三
我々の文藝運動と政治運動……………	五一
芥川龍之介論……………	五四
芥川龍之介と新時代……………	五四
芥川龍之介の死に關聯して……………	五八
日本プロレタリア藝術史論……………	六二
現代文學者の階級的性質……………	七三
片上伸論……………	八四
政治的價值と藝術的價值の問題……………	八六
平林初之輔論……………	九一
「夜明け前」論……………	九一
「第一部」を論ず……………	九六
「完結」を論ず……………	一〇六
行動精神論……………	一一一
能動的精神の擡頭について……………	一一一
行動主義の文學的實踐について……………	一二五
源氏物語の鑑賞……………	一二九
心靈の復活……………	一二四

「宇治十帖」觀抄	一七
散文精神の問題	一八
文學的人生論	一九
世界文學的な立場	二〇
百萬人のそして唯一人の文學	二一
未完成自畫像	二二
文學者の責任について	二三
自由	二四
「民主主義文學」に望む	二五
酒をくみかはして	二六
「靜かな行進」に思ふ	二七
冬木のごとく	二八
強まつてきた黒い流れ	二九
新中國雜感	三〇
ソ連から歸つて	三一
トルストイの家	三二
小説斷想	三三
週刊誌時代と作家	三四

蓮如・「御文章」	一八
半久庵記	一九
私版日本ペンクラブ史	二〇
虚實の床	二一
とはずがたり	二二
玉堂と明烏	二三
小説心輪（抄）	二四
作品解説	二五
青野季吉入門	二六
年譜	二七
参考文献	二八

中村光夫 四七
小田切秀雄 四三

小林秀雄集 目次

筆 蹟

様々なる意匠	三二七
志賀直哉	三二五
志賀直哉論	三二四
おふえりや遺文	三二一
Xへの手紙	三一九
私小説論	三〇六
中原中也の思ひ出	二八四
満洲の印象	二八六
菊池寛論	二七七
菊池さんの思ひ出	二五五
當 麻	二五七
徒然草	二三八
無常といふ事	二五九
西 行	二二二

實 朝	三三八
平家物語	三三九
モオツアルト	三三一
「罪と罰」について	三五四
蘇我馬子の墓	三八三
眞 贋	三八九
エチプトにて	三九五
ピラミッド	三九七
良 心	三九九
歴 史	四〇一
見失はれた歴史	四〇五
言 葉	四〇九
平家物語	四二三
忠臣蔵	四二七
武士道	四二二
學 問	四二六
徂 徠	四三一
辨 名	四二六

考へるといふ事……………四三

作品解説……………中村光夫 四四九

小林秀雄入門……………小田切秀雄 四五六

年譜……………四六九

参考文献……………四七七

青野季吉集

おのれを空しくせよ
これおのれを矢ふには
非にが 全うする道か

昭和三十一年五月の朝

青野季